

日中経済交流研究会新聞

2019年度日中経済交流研究会総会報告

日時 2019年4月12日（金）

場所 道頓堀ホテル

参加者 42名

2019年4月12日（金）、道頓堀ホテルにて2019年度日中経済交流研究会総会が行われ、2018年度の「まとめ」（総括）と2019年度方針が発表になりました。そして2部として、一般社団法人2025年日本国際博覧会協会の永井隆裕氏に「万国博覧会、その魅力と可能性」というテーマで講演をしていただきました。



1部 2019年度の方針について

昨年度の研究成果としては、4回実施した例会の内容とテーマ、そして訪中団（大連を訪問）について報告が行われました。そして、来年度の活動方針である「好奇心と探究心で自社の道を切り拓こう」を基本方針とした各委員会の方針も発表されました。

2部 記念講演

記念講演は「万国博覧会、その魅力と可能性」というテーマで、誘致活動にも使用されたプレゼン資料なども紹介していただきながら、万博のテーマや構想、そして日本経済にあたる影響や可能性について語っていただきました。

講演内容のポイント

●大阪万博は「健康」がテーマ

大阪・関西万博は、2025年5月3日（土）から11月3日（月）まで185日間、大阪湾に浮かぶ夢洲で開催されます。入場者は、3000万人をめざしています。

前回の大阪万博は「人類の進歩と調和」で人間社会と技術進歩との調和であったのに対し、今回の万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」ということで、「健康」が重要テーマに位置づけられています。「10歳若返る万博」「健康になる万博」というユニークな点をアピールし、来場者にやさしく、待ち時間もゼロに感じられるほどの快適で健康的なものになるように最新技術やサービスを駆使し、そして体験ができる博覧会を標榜しております。

「大阪の経済は、万博が行われた1970年頃が高度成長期の真ただ中で、そのころから相対的には徐々に下降線をたどってきている」というものの、もともとポテンシャルが高いので、何かきっかけさえあれば、活気あふれる元気な街になることができます。この万博を契機に、さまざまな分野でビジネスチャンスを生み出し、大阪の復活に寄与できればと期待しております」と永井氏。

●大阪をそして日本を元気に：三つのめざす姿

今回の万博では「いのち輝く未来社会」の実現に向け「健康」を軸に三つのめざすべき姿が想定されています。それはAIなどの革新技术を最大限活用することで、①誰もが生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を実現するという「健康な生活」、②一人ひとりのポテンシャルや個性を発揮し活躍できる社会の実現である「活躍できる社会」、そして③ライフサイエンス関連産業などのイノベーション促進を通じて世界の課題解決に貢献するとして「未来をつくる産業イノベーション」というもの。

万博そのもののプロジェクトをすすめる一方で、最新の技術の開発やイノベーションを通じて医療・健康分野をはじめさまざまな産業分野に刺激を与え、企業や地域経済にも多くの成長機会が期待される博覧会となる機運が高まっていると感じました。

●万博は、世界中の人と交わるチャンス

報告後の質問コーナーでは、数多くの質問が飛びかいました。「IRとはどんな関係に？」という質問や、「開催期間中、地震など災害が起きた場合の対策など考えられていますか」といったシビアな質問をされる方もあり、万博への期待や不安を持つ企業が多いことも今回の総会で感じられました。

最後に永井氏は「万博は、世界中の人と交わるチャンスだと思います。皆さま企業の方々も出展参加が可能ですので、ぜひ積極的に関わっていただき、大阪の経済の復活を共に実現したいと思います」と語られました。

●まとめ

6年後はまだまだ先のように思えますが、すぐにやってきます。この千載一遇のチャンスにもうすでに動きは始めている方もいるかもしれません。オリンピックとは違い、地元で行われる世界最大級のイベントですから、ぜひこの機会を活かしていただきたいと思います。

（取材・文章 日中経済交流研究会 広報委員）